

## 寒川町立南小学校

研究テーマ：自分の考えを持つ・広げる・深める ～考えの“ずれ”を通して～

### 1 実践の目的

本校の学校教育目標は、「共に学び 助け合い みんな 生き生きと～笑顔輝く心身ともに健康なみなみの子～」であり、「知・徳・体」の調和をとれた児童の育成を目指したものである。また、本校の目指す子ども像は、「人とのつながりを大切に、互いに認め合える子」「学び合う楽しさを知り、自分の思いを伝えられる子」である。さらにいえば、「自分の考えをもち、自分のことばで伝えられる子ども」「友だちと意見を交流することで、自分の考えを広げたり深めたりする子ども」を目指している。

児童の実態に応じたよりよい指導をするため、令和4年度の全国学力・学習状況調査の児童質問紙を参考にした。自分とちがう考えについて話し合うのは楽しいと思っていない児童や、自分の考えを広げたり、深めたりすることができていないと感じている児童が4割近くいるということがわかったため、国語科の物語文の学習での「話し合い」に重点を置いて、各学年の系統を生かした指導を実践していくこととした。

令和5年度からはテーマを「自分の考えを持つ・広げる・深める～考えの“ずれ”を通して～」とし、児童が進んで話したくなるためには、話し合う必然性を教師側が意図的につくり上げる＝“ずれ”が顕在化する授業を行うことにした。そして、令和5年度は考えを「もつ」ことに、令和6年度は考えを「広げる」ことに、令和7年度は「深める」

ことに重点を置き、研究を積み重ねていくこととした。

### 2 実践の内容

今年度は、考えを「もつ」「広げる」「深める」の集大成である「深める」に重点を置き、研究発表を行った。研究発表会当日に向け、6月に2年生で研究授業を行った。授業を行う前に全教員で事前協議会を行い、児童の考えの予想・授業の展開を考えてから研究授業に臨むとともに、その後の協議会へ生かすこととした。

協議会では、考えの再構築を図るための板書の工夫や大切さを再確認することができ、特に



低学年においては、教師の問いの持ち方が重要になってくることを確認した。

また、子どもたちは、友だちの意見をよく聞き、話し合うこと、教科書をめくって叙述に基づいて話し合うことができており、日々の積み重ねが現れていた。

研究発表当日は、全学年全クラス公開授業を行い、それぞれ“ずれ”を可視化し、児童が何のために話し合うのかを明確にしたうえで、授業を行った。3年間の取組成果がしっかりと表れた研究発表になった。



### 3 実践の成果と課題

これまで研究発表会を見据えた3年間、「自分の考えを持つ・広げる・深める ～考えの“ずれ”を通して～」を研究テーマとし、授業実践と協議を積み重ねながら研究に取り組んできた。

3年間の研究の成果として、系統的な読む力を育成するための「スイッチ」や各学年各単元の指導事項を確認・共有することで、系統的な国語の学びとして、身に付けるべき力を意識して授業づくりに取り組むことができたといえる。自分の考えをもつ→広げる→深めるといった授業の流れが定着してきたことや教師が名前マグネットやグラフなどを用いて、お互いの“ずれ”を可視化する授業を意識的に行うことで、児童が自分の考えについて自信を持って発表したり、友達と進んで対話し、考えを深めようとしたりする姿が見られるようになった。また、毎月行ってきた校内研究日において、学年やブロック学年で授業検討をする際には、目指す授業により近づくために活発な意見交換が行われ、職員が一丸となって研究に取り組んできた。

児童向けアンケートにおいて、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていますか」への肯定的な回答が全学年で9割を超えており、昨年以前と比べても上昇傾向にある。研究対象とした国語に関する項目で

も8割以上が肯定的な回答であり、教育実践が教師への信頼や児童の前向きな姿勢につながっていると感じている。

一方で、指導方法についての課題も明らかになった。出てきた“ずれ”の情報量を絞り、児童が同じ土台で対話するためには、教師側が児童の考えを予想し、ねらいにせまることのできる学習課題を設定する必要がある。また、考えを深める場面では、児童に自分の考えを再構築させるための手立てを選ぶ難しさを感じた。

これまでに国語科の物語文を中心とした学習活動の積み重ねにより資質・能力の育成を目指してきた。そして、対話の中で感じる、仲間と共に学ぶ楽しさを通じて、他者と協働する力を育てていくことを意識して授業づくりに取り組んできた。私たちは、国語科だけでなく他教科の学習や学校生活に関わる全ての活動が子どもの育ちにつながっていると考えており、山梨大学大学院教授茅野政徳氏からご指導、ご助言をいただいた点は、研究を追究・深化することにつながっている。今後も、子どもたちの育ちのために研究をさらに実りあるものとしていけるよう、引き続き職員一丸となり、校内研究に取り組んでいく。

### 4 今後の展開

3年間研究してきたことを土台に、今後も国語科だけでなく、他教科においても仲間とともに学ぶ楽しさや他者と協働する力を育てていくことを意識して授業づくりに取り組んでいきたい。